

越前町子ども読書活動推進計画



平成19年2月

越前町教育委員会

越前町子どもの読書活動推進計画目次

第1部 計画策定にあたり

- 1 子どもの読書活動推進の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 越前町子どもの読書活動推進計画策定の基本的な考え方・・・・・・ 2
- 3 計画実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2部 子どもの読書活動を推進するための方策

第1章 家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進

- 1 家庭における活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 地域における活動の推進
(1) 図書館における活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
(2) 生涯学習センターや児童館における活動の推進・・・・・・ 6
(3) 民間団体等における活動の推進・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 3 学校等における活動の推進
(1) 小中学校における活動の推進・・・・・・・・・・・・・・ 8
(2) 保育所（園）における活動の推進・・・・・・・・・・・・・・ 9

第2章 家庭、地域、学校等の連携・協力

- (1) 家庭、地域、学校等の連携等・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (2) 推進体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

付属資料

- ・越前町子どもの読書活動推進計画策定 アンケート結果・・・・・・・・ 1
- ・越前町子どもの読書活動推進計画策定検討委員会設置要綱・・・・・・ 11
- ・越前町子どもの読書活動推進計画策定検討委員会委員名簿・・・・・・ 12

第1部 計画策定にあたり

1. 子どもの読書活動推進の背景

子どもたちは、読書活動から言葉を学び、多くの知識や深く考える力を身に付けていきます。また感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするためにも読書活動の果たす役割は重要です。

しかし、近年のテレビ・テレビゲーム・ビデオ・インターネットなど様々な情報メディアの発達・普及は、私たちの生活を便利にした反面、子どもを取り巻く環境をも激変させています。音声・画像・情報がたやすく入手できるため、読書の機会が年々減少の傾向にあり、いわゆる活字離れ、読書離れおよび文章表現力の低下が叫ばれています。

子どもの頃に身に付けた読書習慣は、心の豊かな成長、自ら考え判断する力や創造する力を培い、生涯にわたって身の回りに生じた問題点や課題に対しそれを解決する能力を育むものです。子どもたちの健やかな成長や豊かな人生を送るために読書活動は不可欠です。

今一度読書の意義と必要性を再認識し、子どもの読書活動をもっと身近なものにするために、家庭、地域、学校等が一体となり、読書環境を整備し読書活動を推進していく取り組みが求められています。

このような中、国は子どもの読書活動を支援するために平成12年を「子ども読書年」と定め、平成13年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を施行しました。

この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、地方公共団体が「子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画」を策定・公表することなどを定めています。

この法律の第8条第1項の規定に基づき、平成14年8月、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定されました。

県では国の動向を受け、平成15年4月に「福井県子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動に関する施策の基本方向と具体的な取り組みを示しています。

2. 越前町子どもの読書活動推進計画策定の基本的な考え方

当町においても、この国・県の計画を受け、子どもたちの読書活動を推進していくための指針として「越前町子どもの読書活動推進計画」を策定します。

家庭・地域・学校等それぞれがこの計画の《具体的な取り組み》を実施することにより、子どもたちが読書習慣を身につけ、読書に親しむことで心豊かな生活を送ることができるような環境づくりを目指します。

また子どもの健やかな心を育むために家庭・地域・学校等それぞれが、単体での働きかけだけでなく、連携・協力しながら読書活動の推進に努めます。

3. 計画実施期間

計画実施期間は平成19年度から平成23年度までの5カ年とし、その後においても継続して計画の見直しを行います。

読書は現代の情報社会においても、
なくてはならないものです！

- 読書は、自分自身に向き合う機会を与えてくれます。
- 読書は知る喜びと感動を与えてくれます。
- 読書は様々な疑問や悩みに、ヒントや答えを与えてくれます。



第2部 子どもの読書活動を推進するための方策

第1章 家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進

1 家庭における活動の推進

《現状および課題》

- テレビ・テレビゲーム・ビデオ・インターネット等、様々な情報メディアの発達・普及により音声・画像・情報がたやすく入手できるため、子どもの活字離れが進み、読書の機会が年々減少の傾向にあります。
- 多忙な両親や祖父母等の影響で、乳幼児が1人でビデオ等を長時間視聴する例もみうけられ、家庭内での家族の会話の減少により、言語発達に問題を持つ子どもの増加も懸念されています。
- メディアからの一方通行では、自分の気持ちを言葉で表現する能力や、人に対して思いやりの心が育成されにくい等の問題があります。
- 小中学生を対象に行ったアンケート調査によると、本を読むのが「どちらかというときらい」・「きらい」と回答した人は、小学4年生では全体の25%、中学生では全体の約20%を占めています。このことから4～5人に1人の児童生徒が読書ぎらい・読書離れの傾向にあることが分かります。
- 1週間の間に本を「読まない」と回答した小学4年生は、回答者全体の約30%、中学2年生においては回答者全体の50%以上を占めています。「読む」と回答した人についても、小中学生とも「1時間まで」との回答が40%以上を占めており、家庭での読書時間の少ないことが分かります。
- 小学生はスポーツ少年団など、中学生になると勉強や部活動が忙しいため、読書の時間が取りにくいのが現状です。
- 当町の保育所(園)の4歳児の保護者を対象としたアンケート調査によると80%以上の保護者が読み聞かせを実施しています。
- 読み聞かせを行う時間帯は「夜寝る前」が一番多く、また読み聞かせを行うのは「母親」、次に「祖父母」の順となっています。
- 子どもにとって安らぎの場である家庭は、豊かな人間形成の場でもあるため、家庭における読書習慣の形成は極めて重要な意義をもっています。
- おはなしや絵本の読み聞かせの時間は、両親や祖父母等とふれあい、言葉を覚え豊かな感性を育てる大切な機会であるため、この時間をいかにして確保するかということが課題です。
- 子どもの読書活動の意義や重要性について、両親や祖父母等の関心を高

めていくための働きかけを一層促進していくことが必要です。

《具体的な取り組み》

- 大人が子どもの読書活動の意義や重要性について理解し、自ら率先して読書に親しむとともに、子どもが読書をしやすい環境をつくる等、家庭における読書習慣の形成を促すために次のことに取り組みます。
- ・広報誌等で、読書の必要性や、家族との語らいを楽しみながら読書の時間を共有することの重要性を伝えていきます。
- ・保健センター・保育所等が、テレビ・ビデオ等の長時間視聴の弊害と読み聞かせの有効性を両親や祖父母等に伝え、家庭での読書を支援します。
- ・保健センター等が赤ちゃん絵本を設置し、乳幼児健診の待ち時間等での親子読み聞かせの機会をつくります。
- ・子育て支援センターを中心として、保育所（園）入園前の子どもを持つ両親や祖父母等に対して、読書をとおした子どもとのふれあいの大切さについて啓発をすすめます。

読書のメリット

- 様々な知識が身につきます。
- 感性が磨かれ、心が豊かになります。
- 考えを文章等で上手に表現することができます。
- 創造力が高まります。
- 集中力・判断力が身につきます。
- 問題点や課題を解決する力が身につきます。



2 地域における活動の推進

(1) 図書館における活動の推進

《現状および課題》

- 町内には越前町立図書館・宮崎分館・越前分館・織田図書館があり、来館した子どもたちが手に取りやすいように、新刊書を新刊コーナーに並べています。
- 図書館では、児童サービスを重視し、児童書の選定・収集に力を入れており、毎月テーマを選定し、そのテーマの関連した本をコーナーに並べています。
- 図書館では月に1～2回、子どもの部屋等で乳幼児を対象にボランティアグループの協力による本の読み聞かせを行ったり、おはなしキャラバン隊をよぶ等、園児や小学生に本とのふれあいの機会をつくっています。
- 図書館では、ボランティアの協力で子どものつどいや図書館まつり等を開催し、子どもの読書への関心を促す活動に積極的に取り組んでいます。
- 平成18年度より範囲を町内全域に拡大し、小学校4～6年生と中学生を対象に本の帯コンクールと読書感想文コンクールを実施しています。
- 子どもたちの自発的な読書を誘い、読書欲求に応えるためには、読書意欲をかきたてるような豊富で多様な図書資料の整備が求められています。
- 生涯学習センターに併設されている図書館では、司書の不足や蔵書数が少ない等、問題があります。
- 図書館を利用していない子どもや読書ぎらいの子ども、またその子どもたちの両親や祖父母等にも、広く読書の楽しさや情報を伝えていくことが必要です。
- 改めて子どもの読書活動における最も身近な施設であることを認識し、子どもの本との出会いを一つでも多くするために一層の努力が必要です。

《具体的な取り組み》

- 子どもたちの読書意欲を高めるような行事を積極的に実施していきます。
- 本の配置等に工夫しながら、子どもに読書の楽しさが伝わるような図書や調べ学習を支援する資料の収集を行い魅力ある蔵書構成をめざします。
- 町内4館・県・市町図書館との連携による迅速な資料の貸借を行います。
- 読み聞かせに参考となる図書のリストを作成し、館内に設置します。
- ボランティアと連携した行事をさらに充実することで、目や耳でおはなしの世界を楽しんでもらう機会を充実させ、さらなる子どもの読書活動

の推進を図ります。

- 広報誌やホームページを活用し、読書に関連した行事の紹介や図書館の蔵書の情報を提供し、読書活動を支援します。
- 図書館職員は、子どもの読書活動推進に関連した各種研修を受講し、資質の向上に努めます。

(2) 生涯学習センターや児童館における活動の推進

《現状および課題》

- 当町には現在4つの生涯学習センターと6つの児童館があります。
- 生涯学習センターは、あらゆる世代のための生涯学習の拠点であり、さまざまな生涯学習活動を支援するための講座を開設しています。
- 両親や祖父母等に向けては、家庭教育に関する学習機会の充実を図るため、家庭教育講座等を開催しています。
- 児童館は地域における児童健全の拠点として、児童の遊びの指導、児童の健康増進、児童の情操を豊かにする事業等を行っています。
- 児童館内に本棚を設置し、児童らに本に触れる機会を提供しており、夏休み等の長期休暇の際に読み聞かせを行っている館もあります。
- 児童館の中には、家庭で絵本を楽しみたい児童に対して、本の貸出しを行っている館もあります。
- 生涯学習センターは、あらゆる世代に対しての多様な地域活動の拠点として、様々な生涯学習の機会の提供を行うとともに、子どもの健全な育成を図ることに対しても積極的な活動の展開を図ることが必要です。
- 児童館は、小学生が気軽に利用できる自由な交流の場であるため、子ども同士や親子のふれあいの機会を提供することに加え、心の豊かな成長に関わる読み聞かせや読書の機会を積極的に提供することが必要です。

《具体的な取り組み》

- 生涯学習センターの家庭教育講座等の中で、本の選び方や子どもへの読み聞かせの大切さを伝える内容を盛り込む等、両親や祖父母等に対して読書活動の大切さを啓蒙していきます。
- 生涯学習センターや児童館等で「子どもの読書の日」や各読書週間のポスターを掲示して、両親や祖父母等に子どもの読書活動の意義や重要性をPRします。
- 児童館で館内の本棚の配置等を工夫して、子どもたちが落ち着いて自由に読書ができるスペースを確保します。

(3) 民間団体等における活動の推進

《現状および課題》

- 現在当町では、5つの読み聞かせボランティアグループが各地区図書館において、それぞれ月に1～2回、絵本や紙芝居の読み聞かせ等のボランティア活動を行っています。
- 保育所や子育て支援センター、小学校等を訪問し、子どもたちの読書推進のために読み聞かせボランティアを行っているグループもあります。
- 図書館でも普段の読み聞かせに加え、「子どものつどい」や「子ども図書館まつり」等で人形劇や紙芝居を行う等、図書館行事の支えとなる積極的な活動がなされています。
- ボランティアグループの果たす役割はとて大きく、子どもたちに物語の楽しさを味わってもらい、豊かな心情を育むことに貢献しています。
- ボランティアの高齢化や家庭の事情等で、年々参加できる人の人数が減少しています。その反面新たに加える人の数も少なく、結果として特定の人に頼ることになってしまう等、後継者不足が課題となっています。
- 子どもたちの読書活動に貢献できるボランティア活動があることを住民に広く周知し、参加を呼びかけるとともに、新たな人材を発掘することが必要です。
- 図書館や関連施設はボランティアグループに活動の場所を提供するだけでなく、グループ活動を支援することも必要です。

《具体的な取り組み》

- 図書館等が、ボランティアグループ対象の講演会や研修会への参加を呼びかけ、技術の向上や情報交換の機会を提供し、意識の高揚を図ります。
- 町内各施設で開催するボランティアグループの行事を積極的にPRし、子どもたちやその両親、祖父母等を多数集客することで、グループの意識の高揚を図ります。
- 町内の各ボランティアグループが、生涯学習センターや図書館等で、各団体の枠をこえて一堂に会し、情報交換等を行う場を提供します。
- 広報誌等に読み聞かせボランティアのメンバー募集記事を掲載し、住民に広くよびかけ、ボランティアの充実を図ります。
- 生涯学習センターや図書館等が、子どもの読書活動に興味を持った人たちや新たに活動を始めようとする人たちに、活動内容等の情報の提供を行います。

3 学校等における活動の推進

(1) 小中学校における活動の推進

《現状および課題》

- 当町には現在8つの小学校と5つの中学校があり、全校一斉の読書活動が実施されています。各学校によって時間は若干異なりますが、概ね10～20分の時間を設けて「朝の読書」として取り組んでいます。
- 小学校の全部と半数の中学校では、児童生徒がいつでも学校図書館を利用できるように常時開館（一部中学校は朝・昼休みに開館）しており、授業等の調べ学習の機会にも活用されています。
- 小学校では、校内読書週間や「子ども読書の日」の周辺に関連行事を開催する等、様々な啓発の機会を設けています。
- 約半数の小学校では、読み聞かせボランティアの利用があります。
- 中学校では、推薦図書のリストを生徒に配布する等、読書推進を図っています。
- 小中学校とも、児童生徒の読書の推進を図ることを目的とした、町の行事である読書感想文・本の帯コンクールに参加しています。
- 子どもが読書習慣を身につける上で、小中学校の果たす役割や影響は大きく、様々な教育活動をとおして読書に興味をもたせ、読書活動の推進に努める必要があります。

《具体的な取り組み》

- 一斉読書や読み聞かせ等の読書活動のさらなる充実を図ります。
- 児童生徒が授業での調べ学習等が効果的に行えるように、必要な資料を整備し、学校図書館の充実を図ります。
- 児童生徒による図書委員会活動をさらに活性化させて、家庭に読みたい本がない児童生徒や読書に興味がない児童生徒にも学校図書館に楽しい本があることをPRし、読書が子どもにとってより身近なものとなるよう努めます。
- 「子ども読書の日」や「読書週間」等にポスター掲示や読書活動を啓発する行事を行い、読書の楽しさを体験するきっかけづくりを進めます。
- 小中学校の各発達段階に応じて読書に親しむ態度を育成します。

(2) 保育所（園）における活動の推進

《現状および課題》

- 当町には14の保育所（園）があり、主にお昼寝前やお迎え前等に毎日5分～20分程度の絵本等の読み聞かせを行っています。
- 多くの保育所（園）では、いつでも園児が絵本を読むことができるように絵本コーナーを設ける等して、読みたいときに絵本を楽しめる読書スペースをつくっています。
- その年齢の子どもたちに応じた内容や、その時の季節や行事に応じた絵本を選ぶ等の工夫をしています。
- 親と子、祖父母と孫で家庭での読書を楽しんでもらうために保育所（園）の規定に応じて、月に概ね2冊～4冊、施設によっては20冊の絵本の貸出しを行っています。
- 幼児がゆったりと落ち着いた気持ちで読書ができるように、保育所（園）の読書環境を整備することが必要です。
- 保育士の読書に対する意識向上や読み聞かせ等の研修受講が必要です。
- 両親や祖父母等に対して乳幼児期の読み聞かせの大切さを伝え、発達段階に応じた絵本の紹介をする等、家庭への啓発も必要です。

《具体的な取り組み》

- 保育所（園）で、乳幼児から読書の楽しさと出会いを体験できるように、絵本等に親しむ機会を設けます。
- 読書の楽しさを体験できるよう絵本コーナーのさらなる充実を図ります。
- 乳幼児の年齢に合わせた資料の選定と読み聞かせを行います。
- 保育所（園）の絵本を各家庭に貸出しすることで、親と子、祖父母と孫がふれあいを大切にしながら、夕食前後のひとときや就寝前等に楽しく読書ができるよう働きかけます。
- おたより等をとおして、家庭での読み聞かせの大切さや、それぞれの年齢に応じた絵本の紹介をする等、両親や祖父母等に働きかけます。
- 保育士を対象にした、子どもの読書や「読み聞かせ」等の、各種研修を積極的に受講し、資質の向上に努めます。

第2章 家庭、地域、学校等の連携・協力

(1) 家庭、地域、学校等の連携等

《現状および課題》

- 子どもの読書活動を推進するために家庭・地域・学校等それぞれが、自分の持ち場において積極的に取り組んでいます。
- 子どもの読書活動を一層推進して生活の中に定着していくためには、家庭、地域、学校等が一体となった取り組みが重要であり、連携・協力が求められています。

《具体的な取り組み》

- 家庭、地域、学校等が情報交換・意見交換を促進させ、連携・協力した取り組みを推進します。
- 健診を行う施設で、健診の待ち時間に親子で読み聞かせをするための絵本の設置や、読み聞かせに適した絵本のリストの配布を行います。
- 民間団体が保育所（園）や小学校を訪問し、読み聞かせを行う等子どもたちへの幅広い読書活動の推進を図ります。
- 保育所（園）や児童館・生涯学習センター等と町内各図書館が連携を密にし、必要に応じて図書館の絵本や生涯学習に関連した資料を貸出しする等の支援を行います。
- 小中学校と町内各図書館等との連携を密にし、学校が必要とする調べ学習や授業に必要な資料や朝読書の時間に読む本等が円滑に貸出しできるための体制整備を促進します。
- 図書館への小中学生の施設見学・職場体験等を受け入れます。

(2) 推進体制の整備

平成14年度から新たに設けられた「子ども読書の日」（4月23日）や「子どもの読書週間」（4月23日～5月12日）および「読書週間」（10月27日～11月9日）を普及し、「子ども読書の日」や各読書週間の意義や重要性等を広く啓発していく必要があります。子どもの読書推進にふさわしい事業を展開するとともに、広報誌やホームページ等を活用して保護者および地域住民への啓発も積極的に推進するように努めます。

本計画に基づき、町、家庭、地域、学校等、関係機関の協力関係をさらに強化し、推進体制を整備して子どもの読書活動の推進を図ります。

〈現 状〉

- テレビ・テレビゲーム・ビデオ・インターネット等メディアの発達・普及による活字離れ
- 読書習慣が身についていないことによる読書離れ・文章表現力の低下



〈子どもの読書活動の必要性〉

読書は心の豊かな成長を促進し、自ら考え判断する力や創造する力を培い、生涯にわたって身の回りの問題や課題を解決する能力を育むために必要です。

【方策】

○環境づくり○

家庭・地域・学校のそれぞれの場において子どもが読書活動を推進するための環境の整備と充実

○機会の提供○

子どもが読書活動を積極的にするための機会の提供と充実。読書活動を支える人の育成

○啓発・広報○

子どもの読書活動推進についての啓発・広報。子ども読書の日や読書週間の積極的なPR

読書推進の体系

家庭・地域

- 家庭における子ども読書活動の推進
- 地域（図書館・児童館・生涯学習センター等）における子ども読書活動の推進

小中学校・保育所（園）等

- 学校における読書活動の推進
- 保育所（園）における読み聞かせの推進
- 地域と連携した読書活動の推進

教育委員会

保育所（園）・小中学校・団体等の連携

- 学校・保育所（園）・児童館・ボランティアグループ・図書館等が連携・協力した読書活動の支援
- 各機関の活発な意見交換・情報交換による推進体制の強化

越前町子どもの読書活動推進計画策定 アンケート結果

1. 家庭における読書・読み聞かせの現状

- ・ 小学生 (対象4年生児童) 2
- ・ 中学生 (対象2年生生徒) 3
- ・ 保育所(園)(対象4歳児保護者) 5

2. 図書館、児童館、学校、保育所(園)等各施設における活動の現状

- ・ 図書館における現状 6
- ・ 児童館における現状 7
- ・ 小学校における現状 8
- ・ 中学校における現状 9
- ・ 保育所(園)における現状 10

1. 家庭における読書・読み聞かせの現状

当町の読書状況を把握するために任意抽出した各小中学校・保育所（園）から調査対象となる人に「読み聞かせ・読書に関するアンケート調査」を実施しました。

抽出した校・園の数および調査対象、回収数などは下記のとおりです。

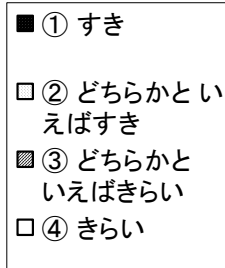
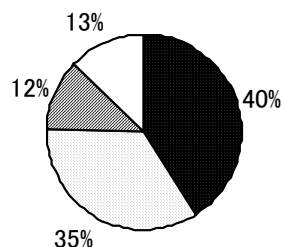
	校・園の数	調査対象	配布数	回収数	回収率
小学校	4校	4年生（本人）	114	110	96.4%
中学校	3校	2年生（本人）	88	82	93.1%
保育所（園）	4園	4歳児の保護者	78	66	84.6%

《小学生》（対象：4年生児童）

問1. あなたは本を読むのが好きですか？

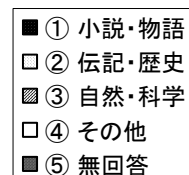
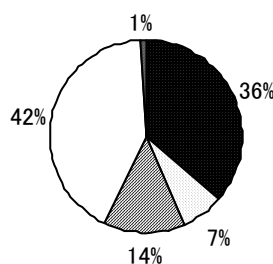
110人のうち、45人（40%）が好きと回答しています。どちらかといえば好きとの回答は38人（35%）でした。

その反面、どちらかというときらいが13人（12%）、きらいが14人（13%）との回答があり、4人に1人の児童が読書ぎらいの傾向にあります。



問2. あなたはどんな本をよく読みますか？1つだけ選んでください。

110人のうち、小説・物語を選んだ人が40人（36%）、伝記・歴史は8人（7%）、自然・科学は15人（14%）にとどまっている反面、クイズ・ゲームなどを含むその他を選んだ児童は46人（42%）と1番多く全体の4割以上を占めています。

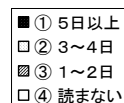
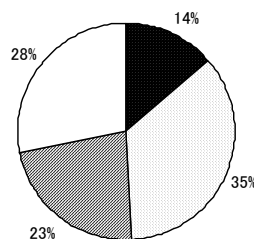


問3. あなたは1週間の間に、家で何日くらい本を読みますか？

110人のうち読むと回答した人は79人でした。そのうち3～4日と答えた人が

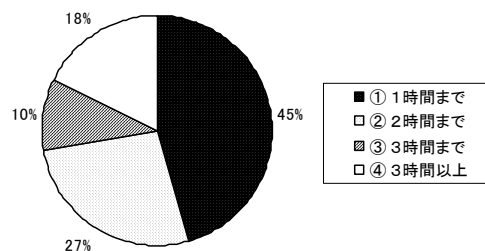
最も多く、39人（35%）で全体の3割以上を占めています。次に1～2日の人が25人（23%）、5日以上の15人（14%）が続きます。

読まない人は31人（28%）であり、全体の3割近くを占めています。



問 4. 読むと答えた人は、家で一週間に読む時間は合計でどのくらいですか。

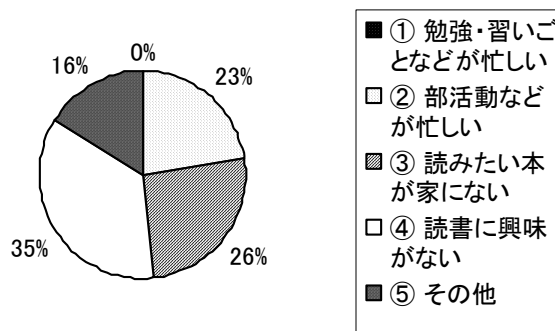
問 3 で読むと回答した 79 人のうち、半数近くの 36 人 (45%) が 1 時間までと回答しています。また 2 時間までが 21 人 (27%)、3 時間までが 8 人 (10%) で 3 時間以上が 14 人 (18%) と回答しています。



問 5. 読まないと答えた人は、一番あてはまる理由を 1 つ選んでください。

問 3 で読まないと回答した 31 人のうち、読書に興味がないと回答した人が最も多く、11 人 (35%)、読みたい本が家にないと回答した人は 8 人 (26%)、部活動 (スポーツ少年団含む) などが忙しいと回答した人が 7 人 (23%)、その他が 5 人 (16%) という結果となりました。勉強・習いごとなどが忙しいと回答した児童はいませんでした。

その他の理由としては「読むのが面倒くさい」、「いろいろ忙しい」がありました。

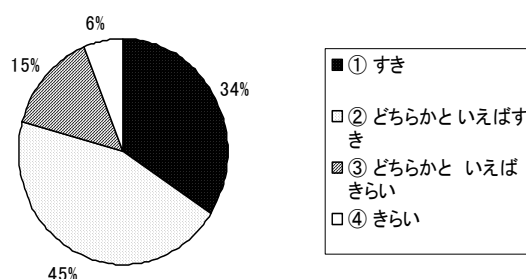


《中学生》 (対象：2年生生徒)

問 1. あなたは本を読むのが好きですか？

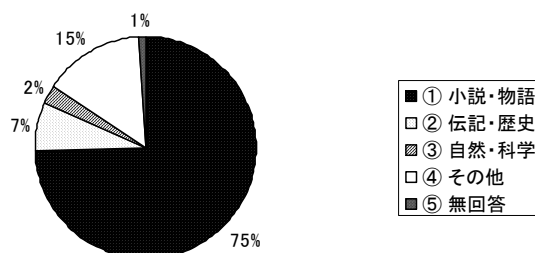
82 人のうち、好きと答えた生徒は 28 人 (34%)、どちらかというときは 37 人 (45%) で、約 8 割の生徒が読書に関心を持っています。

どちらかといえばきらいと答えた生徒は 12 人 (15%)、きらいは 5 人 (6%) で 2 割の人が読書ぎらいの傾向にあります。



問 2. あなたはどんな本をよく読みますか？ 1 つだけ選んでください。

82 人のうち、小説・物語と答えた人が 61 人 (75%) と最も多く、全体の 4 分の 3 を占めています。伝記・歴史は 6 人 (7%)、自然・科学は 2 人 (2%) と続く一方、クイズ・ゲームなどを含むその他については 12 人 (15%) となっていま

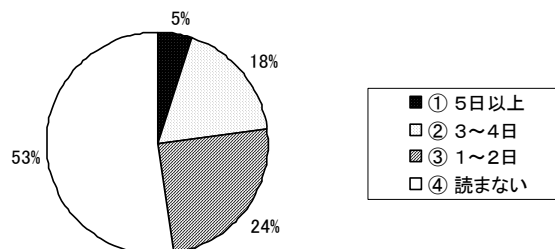


す。

問3. あなたは1週間の間に、家で何日くらい本を読みますか？

82人のうち読むと回答した人は39人でした。そのうち1～2日読む人が20人（24%）と最も多く、次に3～4日の15人（18%）、5日以上の4人（5%）が続きます。

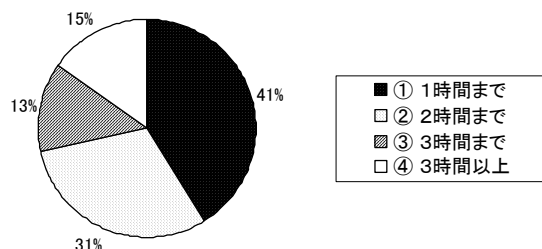
一方、読まない人が43人（53%）と全体の半数以上を占めています。



問4. 読むと答えた人は、家で一週間に読む時間は合計でどのくらいですか。

問3で読むと回答した39人のうち、約4割の16人（41%）が1時間までと回答しています。

また2時間までが12人（31%）、3時間までが5人（13%）で3時間以上が6人（15%）と回答しています。

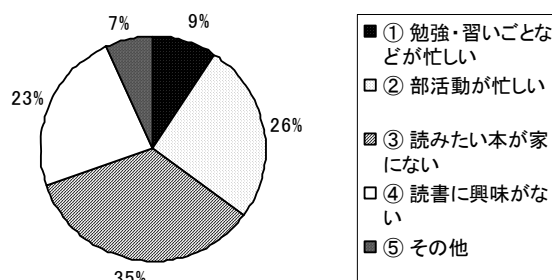


問5. 読まないと答えた人は、一番あてはまる理由を1つ選んでください。

問3で読まないと回答した43人のうち、読みたい本が家にないと回答した人が15人（35%）で最も多く、読まない人の約3割を占めています。

次に部活動などが忙しいとの回答は11人（26%）、読書に興味がないとの回答は10人（23%）、勉強・習いごとなどが忙しいとの回答は4人（9%）、その他の3人（7%）と続きます。

その他の理由としては、「読もうとは思わない」、「読む時間がない」、「じっとしていることが苦手だから」がありました。



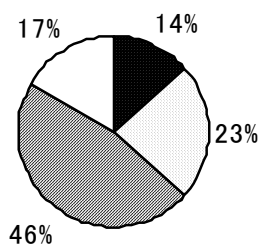
《保育所(園)》(対象：4歳児保護者)

問1. 1週間の間に、何日お子さんに絵本などを読んであげたり一緒に見たりしますか？

66人のうち、読んでいると答えた人は55人で、全体の8割以上を占めています。

半数近くの31人(46%)が1～2日と回答しています。次に15人(23%)の3～4日との回答が多く、9人(14%)が5日以上と回答しています。

一方、読んであげていないと回答した人は11人(17%)でした。

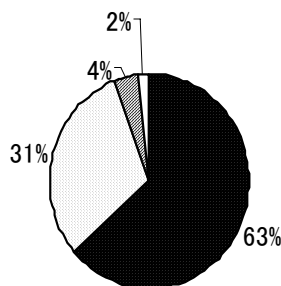


- ① 5日以上
- ② 3～4日
- ▨ ③ 1～2日
- ④ 読んであげない

問2. 1週間で絵本などを読んであげる時間はだいたいどのくらいですか？

問1で読んでいると回答した55人のうち、35人(63%)が30分までと回答しています。

また約3割にあたる17人(31%)が1時間までと回答し、2時間までの人が2人(4%)、2時間以上が1人(2%)との回答となりました。

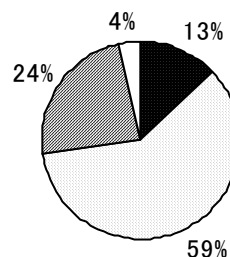


- ① 30分まで
- ② 1時間まで
- ▨ ③ 2時間まで
- ④ 2時間以上

問3. 家庭で絵本などを読んであげるのはどなたが一番多いですか？

問1で読んでいると回答した55人のうち母親との回答が33人(59%)と全体の6割を占め、祖父母の13人(24%)が続きます。

その一方父親は7人(13%)、兄弟姉妹は2人(4%)という結果でした。



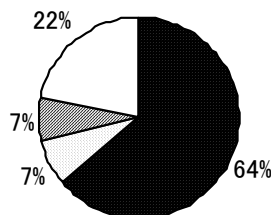
- ① 父親
- ② 母親
- ▨ ③ 祖父母
- ④ 兄弟・姉妹

問4. どのような時間帯に絵本などを読んであげたり一緒に見えていますか？
(複数回答)

問1で読んでいると回答した55人よりのべ69人分の回答がありました。

夜寝る前が44人(64%)と一番多く、夕食の前後の15人(22%)が続きます。

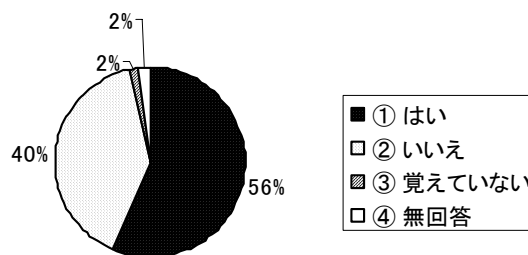
また子どもが絵本に興味を持った時と親が休みの時がそれぞれ5人(7%)ずつとなっています。



- ① 寝る前
- ② 子どもが興味を持った時
- ▨ ③ 親が休みの時
- ④ 夕食前後

問5. あなたは子どもの頃に絵本や本を読んでもらったことがありますか？

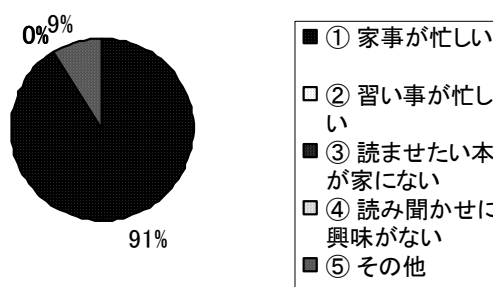
問1で読んであげていると回答した55人のうち31人(56%)が、はいと回答しています。その反面、22人(40%)がいいえと回答しています。その他、覚えていないと無回答の人が1人(2%)ずつあります。



問6. 読んであげない理由を1つ選んでください。

問1で読んであげないと回答したのは11人(17%)で、その中で10人(91%)が家事が忙しいからと回答しています。

その他と回答した1人(9%)は、その理由として、子どもが自分で読んだり兄弟と読んだりしているからと回答しています。



2. 図書館、児童館、学校、保育所(園)等各施設における活動の現状

当町の各施設の読書・読み聞かせに関する現況を把握するために、町内各図書館・児童館・小中学校・保育所(園)に対してアンケート調査を実施しました。各施設の現状は以下のとおりです。

《図書館における現状》

回答施設 4施設 (全4施設)

1. ボランティア団体の数 5団体

2. ボランティアの活動状況(月に1人あたり)

利用なし		1館
利用あり	月に1~2回	2館
	月に2回	1館

3. 読み聞かせ以外の活動

- ・ 工作など
- ・ 年に1回開催している子ども図書館まつりにも参加し、人形劇やゲーム等で盛

り上げてもらっている。

4. ボランティアをさらに活性化するために

- ・勉強会を行う
- ・団体の枠をこえてボランティアが一同に会し、情報交換や研修を行う場を提供する。
- ・図書（紙芝居なども）購入の際に意見を求めたり、情報を提供するなどして活動を支援する。

《児童館における現状》

回答施設 3施設 （全6施設）

1. 現在の利用者への読み聞かせの状況

毎日 1回につき約5～20分程度 夏休み開館時は毎日

2. 絵本の家庭への貸出状況（月に1人あたり）

利用なし	1館
利用あり 1人あたり1冊	2館

3. 読み聞かせボランティアの利用

ある	1館
ない	2館

4. 児童への本に親しませるためのよい方法について

- ・小さいときから身近な人が絵本を読んであげたりするのが一番いいと思う。小学生くらいになるとこういう本もあるよと紹介してあげる時間もあるといいのかもしれない。
- ・新しく入った本はコーナーを設けて紹介しているが、古い本も内容を見直しておすすめのコーナーをつくって関心をもたせていきたい。

5. 本に親しませることに対する課題について

- ・学校がある日は帰ってくる時間もバラバラなので、バタバタしていてじっくり読み聞かせができにくいので残念である。
- ・現在は読書コーナーと運動遊びのホールが同じフロアなので本に集中する雰囲気欠ける。何とか工夫したい。

《小学校における現状》

回答施設 8施設 (全8施設)

1. 学校図書館の開館状況について

常時開館している 8校

2. 推薦図書などの生徒への配布状況について

生徒に配布している 3校
していない 5校

3. 授業などでの生徒の学校図書館利用について

利用している 8校

4. 朝の読書などの実施状況について

実施している 8校
実施時間 10分 3校 (3週間に1週間実施の1校含む)
15分 4校
20分 1校 (1週間に1日実施)

5. 校内読書週間の実施状況について

実施している 8校

6. 「子ども読書の日」や読書週間に関連した行事の開催

開催している 8校

7. 本の紹介や本について話合う機会について

機会がある 8校

8. 工夫していること・ご意見・ご要望など

- ・おすすめ・新刊図書の紹介や多読賞の発表をしている。6月と11月を、伝記を読む強化月間になっている。
- ・図書委員会で本の紹介や校内読書賞の表彰を行っている。
- ・一言感想や感想画を掲示している。
- ・読書ラリー(学年ごとに読んでほしい本のリストをつくる)や読破賞(1,000ページごとに表彰)をしている。また図書室の本の貸出チャンピオンを紹介している。
- ・町の図書館から本の貸出しに来てもらえるとういかなと思う。
- ・巡回図書を利用できると子どもたちの読書意欲も向上すると思う。

付属資料

《中学校における現状》

回答施設 5施設 (全5施設)

1. 学校図書館の開館状況について

常時開館している 2校
朝・昼休みなどに開館 3校

2. 推薦図書などの生徒への配布状況について

生徒に配布している 4校
していない 1校

3. 授業などでの生徒の学校図書館利用について

利用している 5校

4. 朝の読書などの実施状況について

実施している 5校
実施時間 10分 1校
15分 4校

5. 学校図書館だよりの発行状況について

している 2校
していない 3校

6. 校内読書週間の実施状況について

実施を予定している 1校
していない 4校

7. 本の紹介や本について話合う機会について

ある(委員会や授業時間含む) 4校
計画段階 1校

8. 工夫していること・ご意見・ご要望など

- ・本の貸出票の工夫をしている。また、朝の読書を実施しているからか特に何も言われなくても自主的に読書をしている。
- ・各自が読書カードを持ち累計ページ数を記入している。月1回読書量を調べ、上位者を発表している。
- ・司書教諭が専任ではないので空になっている時間が多い。専任の司書教諭の配置をお願いしたい。

《 保育所（園）における現状 》

回答施設 11施設 （全14施設）

1. 現在の園児への読み聞かせの状況

毎日 1回につき約5分～20分程度

2. 読み聞かせの時間帯

主にお昼寝前やお迎え前

3. 絵本の家庭への貸出状況（月に1人あたり）

利用あり1人あたり	2～4冊	7施設
	20冊	1施設
利用なし		3施設

4. 読み聞かせボランティアの利用

利用がある	4施設
ない	7施設

5. 園児への本に親しませるためのよい方法について

- ・子ども達が今何に興味をもっているか察知しそれに関する内容の本を用意する。
- ・年齢や季節に合った絵本・興味を持てる絵本を用意する。
- ・子ども達の活動を見ている中で必要と思われる本を意図的に置く。
- ・ゆっくりくりかえし読み聞かせをする。
- ・個人の月刊絵本を購入している。
- ・保育士自身がジャンルを問わず読み聞かせの機会を多く持つ。
- ・年齢に応じた絵本を選んで各クラスに置いている。
- ・毎月月刊誌を購入し家庭でも読書に親しまれるようにしている。

6. 本に親しませるために取り組んでいること

- ・いつでも絵本を読むことができる環境を整え、静かな読書スペース（机とイスの配置）をつくっている。
- ・絵本コーナーの部屋を設け、いつでも親しまれるようにしている。
- ・絵本棚の前にイスと机を用意し読書コーナーを設けている。
- ・いつでも好きな時に読める読書コーナーをつくる。
- ・絵本貸出日は子ども自らが好きな本を選びじっくりと関わる時間を設けている。
- ・子どもの手の届くところに絵本を常備し、いつでも楽しめるようにしている。
- ・子育て支援センターで読み聞かせをしているボランティアにきていただいている。
- ・家庭においても、小学校3年生までは読み聞かせが大切と折にふれ伝えている。

越前町子どもの読書活動推進計画策定検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 越前町子どもの読書活動推進計画の策定に向けて、必要な事項を調査検討するため、越前町子どもの読書活動推進計画策定検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 越前町子どもの読書活動推進計画の策定に関すること
- (2) 計画策定のための関係機関との連絡調整に関すること
- (3) その他、目的達成のために必要な事項

(組織)

第3条 委員会の委員は、10人以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験を有する者、町民の代表その他教育長が適当と認められる者の中から教育長が委嘱する。

(役員)

第4条 委員会に会長及び副会長各1名を置く。

2 会長・副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、委員会設置から計画策定の完了までとする。

(会議)

第6条 委員会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会長は、特に必要があると認めるときは、委員会の会議に委員以外の出席を求め、説明又は意見を述べさせることができる。

(事務局)

第7条 委員会の庶務は、町立図書館にて行う。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、その都度協議して決定するものとする。

附 則

1 この要綱は、平成18年7月28日から施行する。

越前町子どもの読書活動推進計画策定検討委員会委員名簿

(敬称略)

No.	氏名	選出区分	備考
1	樟本 和江	教育委員	
2	中橋 鉄治	図書館協議会会長	会 長
3	渡辺 雅子	宮崎小学校教諭	
4	渡辺 庄治	朝日小学校 P T A 副会長	副会長
5	伊部 正樹	萩野小学校 P T A 副会長	
6	松田 敬子	織田中学校教諭	
7	渡辺 則久	宮崎中学校 P T A 会長	
8	佐々木千鶴子	ボランティアおはなしあい・ 愛代表	
9	河合 博美	宮崎中央保育所長	
10	松田みすず	朝日児童館次長	